



ごみ減量30%達成!!

平成22年度の家庭ごみ排出量が、平成17年度比で31.9%減を達成しました
市民の皆様、ご協力ありがとうございました。

引き続き、ごみ減量を

平成22年度の家庭から出るごみの量は、前年度比で13.8%の減。平成17年度比では31.9%の減

ごみ減量の貢献団体を表彰

ごみ減量30%達成記念式が4月27日、市役所で開かれ、ごみ減量の推進に貢献した総社市コミュニティ連絡協議会、総社市山手地域づくり協議会、総社市ごみ減量化作戦連合協議会の3団体に、市から感謝状が送られました。

平成22年度中途の昨年10月に市指定ごみ袋の販売額を半額にしましたが、同年度のごみ量は、有料化される前年の平成17年度比で31.9%の減量を達成。平成21年度と比較しても13.8%の減です。

式には、SOJAごみ減量サポーターの代表者ら約20人が出席。市長は、「こ



ごみ減量30%達成記念式で表彰される団体

れだけの減量達成は、市民の皆さんの努力のたまもの」と感謝し、一層の減量に努めてほしいと呼び掛けました。

SOJAごみ減量サポーターでもある市コミュニティ連絡協議会(平松秀昭会長)は「ごみは増やさない」のポスターを作り減量意識を啓発、市山手地域づくり協議会(高谷義行会長)は、雑紙の回収を推進。また、市ごみ減量化作戦連合協議会(山口久子会長)は、長年にわたり、割りばしの回収やマイバッグ運動を推進しています。

問い合わせ 環境課美化推進係 (☎083338)



市では市民のごみ減量やリサイクルに対する意識を把握するため、今年2月14日から2月28日まで、無作為に抽出した2023世帯を対象に「ごみ減量・リサイクル市民アンケート」を実施しました。回収率は51.7%でした。

45リットル、30リットル、20リットルの3種類ある市指定ごみ袋の使用を尋ねると、1回のごみ出

しに45リットル袋を1枚使用する世帯が最も多い結果が出ました。「20リットルより小さなごみ袋があった方がよいか」の問いには、約25%の人が10リットルや5リットルのごみ袋がある」とよいと答えたのに対し、約75%の人は現行のままですとよいと答えています。

資源ごみの雑紙は、約8割の世帯が資源ごみとして出していました(グラフ②)。

レジ袋については、約半数の世帯が普段の買い物でもらわないようにしている」と回答。さらに、レジ袋を1枚5円程度に有料化することについては、約3分の2の世帯が賛成でした(グラフ③)。

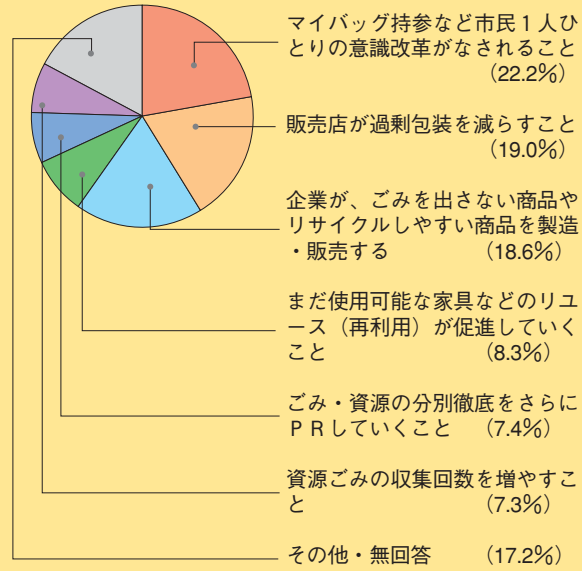
仮に有料となっても、これまでと同じ店で買い物をすると回答が9割近くを占めています。

えで特に重要だと思われることへの問いには、「マイバッグ持参など市民の意識改革」がトップ(グラフ①)。

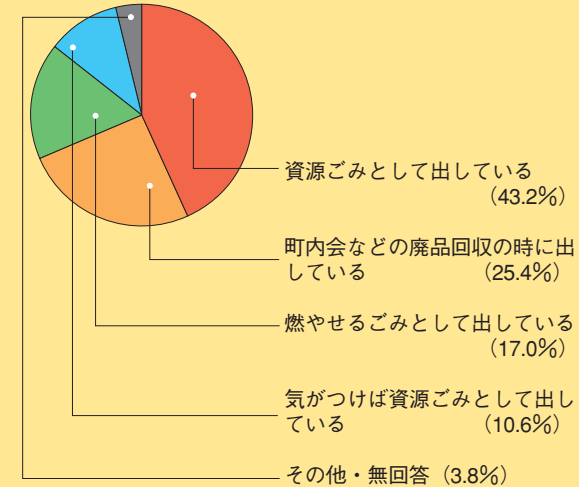
以下、「過剰包装を減らす」、「企業がごみを出さない商品やリサイクルしやすい商品やリサイクルしやすい商品を製造・販売する」が続き、ごみ減量とリサイクルは社会全体で取り組まなければならぬ課題との意識が見てとれます。

ごみ減量には「マイバッグ持参など市民の意識改革」がトップ

■ごみ減量を進めていくうえで、特に重要だと思うこと (グラフ①)



■雑紙を資源ごみとして出していますか (グラフ②)



■1枚5円程度のレジ袋の有料化に賛成ですか、反対ですか (グラフ③)

